とことん
個性、
舞台
ぞくぞく。

ともに生きる　ともに創る
共生共創通信

第7号
令和3年4月発行

リーディングシネマ「ちいさなちいさな王様」
対談 OriHimeパイロット さえ × 俳優 藤野涼子
遠隔で共創する、心の豊かさをうむ出会いの物語

KYOSEI KYOSO TSUSHIN

共生共創事業 配信作品ラインアップ
2020年度の配信動画は、こちらからご覧いただけます➡

チャレンジ・オブ・ザ・シルバー 2020年度成果発表作品
『TRACE』『Figures in the shadow, Figures in the light』

共生共創事業プロデュース
リーディングシネマ「ちいさなちいさな王様」

横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」令和2年度公演
「こんな11月3日観たことない！」宮沢賢治『雨ニモ負ケズ』より

共生共創事業×電撃障害者商品企画会議 VACCURS
『電撃障がい者創作創造プロジェクト』

綾瀬シニア劇団　令和2年度公演
無観客オンライン公演『道成寺〜サワリタイ サワレナイ〜』

神奈川県あそび歌プロジェクト「世界の歌とあそぼう」
ラテンアメリカのあそび歌『ペリキト』
よしお兄さんとおどろう！ラテンアメリカのあそび歌『ペリキト』
韓国・朝鮮のあそび歌『チンドアリラン』

小田原シニア劇団「チリアクオールディーズ」令和2年度公演
連続短編集『明日にしよう』
第1部「アイドルになりたい」第2部「ともだちになりたい」
第3部「お金持ちになりたい」

7号 2021年4月20日発行　発行：神奈川県国際文化観光局文化課
企画・制作・お問合せ先：公益財団法人神奈川芸術文化財団 社会連携ポータル課
TEL:045-306-6811（受付：平日 10:00 - 18:00）FAX:045-681-1691
【禁無断転載・複写】

とことん 個性、舞台 ぞくぞく。 共生共創事業

神奈川文化プログラム MAG CUL マグカル

対談 OriHimeパイロット さえ × 女優 藤野涼子

遠隔で共創する、心の豊かさをうむ出会いの物語

ぬいぐるみサイズの小さな分身ロボットOriHimeは、コロナ禍や障がいで外出が困難な方にとって、希望の光となるコミュニケーションツールです。操縦者はスマートフォンやタブレット端末により、OriHimeを通じて見たり話したりするほか簡単な身振り手振りを加えた操作ができ、まるでロボットに実際に〝搭乗〟しているかのように、遠隔でその場に「居る」ことができるのです。

すでに社会で実用化され、障がいなどで外出が困難な人に、分身テレワークでの就労を叶えているOriHimeが、なんとドイツのベストセラーファンタジー小説『ちいさなちいさな王様』を主題とするリーディングシネマに出演しています。搭乗するパイロットは、身体表現性障がいを抱えて10年以上外出ができない生活を送るさえさん。相手役としてNHK大河ドラマ「青天を衝け」にも出演中の藤野涼子さんが共演します。

作品づくりの稽古に入る前に、ふたりの対談を行いました。OriHimeに乗るさえさんと藤野さんは、この日が初対面です。

―OriHimeを通じたお互いの初対面の印象はいかがですか？

藤野　小さくて可愛らしいフォルムで、ロボットのイメージが変わりました。首を振ったり拍手をしてくれると、本当にコミュニケーションをしている気持ちになれます。

さえ（OriHime）はじめまして。

藤野　藤野さんをテレビで拝見していて、とても素敵な女優さんだなと思ってたので、ご一緒できるなんて夢みたいです。実際にお会いして見て、初対面なのに優しく気遣ってくださって。

藤野　OriHimeが活躍するカフェのイベントがありましたね。その時、さえさんも働かれていたのですか？

さえ　はい、2年ほど前から期間限定のカフェを年に4回ほどやっていて、いつもお仕事させていただいています。もともとはバリスタをしていたんですよ。昨日は二子玉川の蔦屋家電、普段は神奈川県庁で受付の仕事をしてます（※）。（※現在は終了しています。）

―今回のリーディングシネマについてどう感じていらっしゃいますか？

さえ　女優さんとお会いするのもそうですが、初めてのことばかりでドキドキしています。家から出られなくてもこんな機会があることがとても嬉しくて。ロボットだけど、人らしさやあったかい感じを届けられたらいいなって思っています。

藤野　この作品は大人にも刺さる言葉がたくさんちりばめられているなと感じました。成長していくにつれて夢や想像力が大きくなっていく「王様」と、その反対に大人になるにつれて夢や想像力を失っていく「僕」。その姿にとても考えさせられました。私の近くにも「王様」がいたらいいなと思いました。もしも「王様」がいるとしたら、どこにいるのだろうと想像してしまいます（笑）

さえ　この絵本とは病気になる前に出会っていて、大好きな絵本だったので、運命みたいなものを感じているんです。今回、私は「王様」役ですが、改めて読み返して、以前とは印象が変わって、主人公の「僕」にすごく共感しました。毎日のルーティーンを諦めるように生きている「僕」が、「王様」に出会ってから、少しずつ心が豊かになり、想像力が戻ってくる様子が、病気になって家から出られずに寂しかったり悔しかったり、ままならない気持ちで暮らしていた私が、OriHimeと出会って自分の世界が広がっていったのと、とても気持ちが重なりました。

―作品づくりに向けた意気込みをお聞かせください。

藤野　OriHimeの開発者である吉藤健太朗さんが、「つながりができることで、孤独を感じずにすむ」と話をされていて、その言葉にとても感動しました。私はこの企画を通してOriHimeの存在を知ったので、子供から大人まで、多くの世代の方々にこの作品を見てもらいたいです。この作品がOriHimeのことを知るきっかけになればいいなと思います。

さえ　元気な人もコロナで外に出られなかったりする時代なので、病気や障がいに関係なく、いろんな人にOriHimeの可能性を感じてもらえたらいいなと思っています。これがご縁で人の輪が広がっていくといいですよね。藤野さんの『ちいさなちいさな王様』の感想を伺って、ひとつの作品をみんなで創っていくのが楽しみだなって思えました。

藤野　今回の対談でさえさんが感じていることを、私ももっともっと知りたくなりました。これから稽古に入るのが楽しみです。

ライター　友川綾子
写真　actley 吉川毅
収録　2020年12月15日

プロフィール

さえ
（OriHimeパイロット）
身体表現性障害を抱え、外出ができない時期が10年ほど続いているが、1年半ほど前からOriHimeを使ってカフェや書店、神奈川県庁等での仕事を始める。2020年1月市原悦子さんの追悼朗読会「まんが日本昔ばなし」に出演。

藤野 涼子
（ふじの　りょうこ）
2015年に「ソロモンの偽証」で主演デビュー。日本アカデミー賞新人俳優賞など、数多くの賞を受賞。2016年「クリーピー　偽りの隣人」（映画）、2017年NHK連続テレビ小説「ひよっこ」など出演作は多数。2019年には「神奈川県統一地方選」のイメージキャラクターも務める。2021年NHK大河ドラマ「青天を衝け」に主人公の妹・てい役で出演中。

リーディングシネマ『ちいさなちいさな王様』

撮影現場より

「おはようございます」というOriHimeがただのロボットから、さえさんになる瞬間です。ご本人は別の場所にいらっしゃるのに、さえさんが遠隔操作でOriHimeに入ると、いつも現場が一層明るく、和やかになります。

「僕」役の藤野涼子さんもスタッフも、最初はさえさんとお互いにどう聞こえ、どう見えているのか探り探りでしたが、すぐにさえさんと同じ空間にいるという実感を持つことができました。

OriHimeの手や顔が動くのはもちろんですが、きちんと視線が合っていると感じられる事がパソコン画面越しのリモートと大きく違い、さえさんが「その場にいる」という感覚を強めているのだと思います。

カメラが回る直前の緊張感、本番中の真剣な空気、撮影の合間の雑談……どの瞬間も全員がきらきらしている、そんな現場でした。完成した作品もまるで宝箱のような是非ご覧ください！

（文・千葉乃梨子）

共生共創事業×電撃障害者商品企画会議VACCURS『電撃障がい者創作創造プロジェクト』

今年度の成果とこれからのこと

二月の日曜日に、YouTubeでの配信番組を通して映像作品発表とアフタートークをお届けしてきました。

studio COOCA所属のロックバンドTHE KENTY DONUTSが初めてライブハウスで演奏する様子。得意のシャウトとキレキレのパフォーマンス、多様な表現がギッチリ詰まった映像作品を発表。

横浜市旭区のまどか工房では、施設の皆さんの仕事であるお弁当づくりを題材にモモンガ・コンプレックスの白神ももこさん振り付けによるキッチンダンスを収録しました。働くことは踊ること、創作や表現のヒントは日常のすぐ身近にある、そう感じてもらえる作品です。

最終回のシンポジウムを通じて、障がい福祉の世界で行われているアートへの取り組みや、舞台創作を協働して行う意義について話し合われました。「全ての人が舞台芸術に参加し、楽しめる」ことを目標とする共生共創事業。その楽しさ、難しさと向き合いながら、これからも事業に取り組んで参ります。

第三回配信が共生共創課スタッフの進行の不備により中止になってしまいましたこと、お詫びいたします。

（文・中野敦之）

神奈川県あそび歌プロジェクト『世界の歌とあそぼう』

「あそび歌」を歌って遊んで、多文化を体験！

神奈川県在住の外国にルーツのある方々にインタビューをして教えていただいた「あそび歌」を基に、今回はラテンアメリカの「ペリキト」、韓国・朝鮮の「チンドアリラン」という2つのあそび歌をご紹介します。

振付家のホナガヨウコさんと、音楽ユニット3日満月の権頭真由さん、佐藤公哉さんによってアレンジ・創作されたそれぞれの文化を活かした振付や音楽も注目です。是非、ご家族や友達とお家などで「世界のあそび歌」にチャレンジしてみてください。また、「あそび歌」の詳しいあそび方やそれぞれの地域の他のあそび歌などリーフレットとして公開しています。併せてご覧ください。

（文・井尻有美）

横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」

プロジェクトリーダー　横田和弘

緊急事態宣言もなんのその！

緊急事態宣言は二回目の経験。昨年テクニカルや環境面での不安、困難の多かった事。そして今回の緊急事態宣言。正直それほど、困惑もしませんでした。それは、前回の経験でリモートでも稽古は出来る！の自信もあったからです。「ここまでリモートでできるの？」と思えるほど、様々なチャレンジをしてきました。楽しい稽古場です。

一人一人のスキルが、とてもアップしていること、そのリモート稽古の成果に正直びっくりしています。しかしもっと大きな成果は、私と団員達、団員同士の距離感が近くなったこと。不安なこともあります。それはリモートに参加できる人とできない人の温度差。でも、その問題点もお互いがお互いを理解し合い、思いやる心が解決してくれているのです。勿論早くの対面稽古を、皆待っています。

自慢話になりますが、劇団「よっしゃ!!」は発展途上の、成熟した素敵な集団です。

小田原シニア劇団「チリアクオールディーズ」

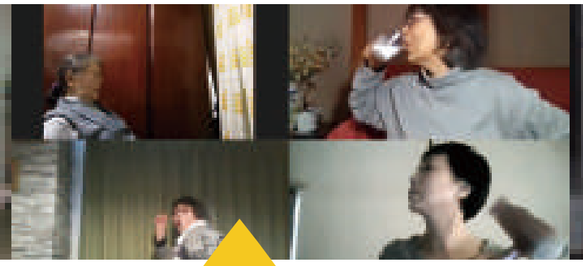
プロジェクトリーダー　大島寛史

「負けずに挑みたい」

諦めずに続けるんだ、と踏ん張り続けるよりも、うまく付き合っていく方法を探す方が遥かに生きやすいのかもしれないなぁ、と最近は考えています。

私たちは3月に、舞台公演のために書いた脚本をリーディング形式で発表する、という目標に向かって活動をしていました。ほとんどのレッスンをZoomを利用して実施。このやり方で作品が作れるのか、初めての試みなので不安もありましたが、レッスンのためにスマホに機種変し、慣れないPCを触り、途中で電池が切れながらも挑戦することをやめないメンバーの姿を見ていると、勇気づけられると同時に、負けていられないなぁと奮い立ち、なんとか成果発表にこぎつけることができました。

新型コロナに振り回されながらの活動ですが、健康を守りながら、生命を大切にしながら、うまく付き合って、おもしろの可能性を探していこうと思います。



「住めば都のオンライン!!」

9月から対面での稽古を重ねてきて、これからやっと本格的に芝居を組み立てようという矢先でした。2月7日から対面の稽古ができればギリギリ間に合うと思っていましたが、この度、私たちはオンラインでの公演に切り替えました。

大きく変わるのはオンライン環境。スマホやタブレットはノートパソコンに変更します。やっと、今までのオンライン稽古で感じていた不自由を解消して、心おきなく私たちの表現に進んでいけます。

そうなんです。私たちは試しに始めたオンラインの稽古の中で、この見慣れない演劇に可能性を見出していたのです。

まず、表情がよく見える。（マスクなしでもOK！）小さな声のニュアンスがよくわかる。（声が小さくてもOK！）ディスタンスを気にしなくてもOK！

そこには、対面での演劇とは違った世界が広がっていました。私たちはこのオンラインの世界の住人として新しい表現に挑戦します。

綾瀬シニア劇団

プロジェクトリーダー　倉品淳子

シニア企画 それぞれの近況

「かながわシニア創作創造プロジェクト」として、
神奈川県内各地でシニア劇団やシニア向けダンス企画を展開している
４団体の近況をご紹介します。

チャレンジ・オブ・ザ・シルバー

プロジェクトリーダー　安藤洋子

変わること、変わらないこと

チャレンジ・オブ・ザ・シルバーでは、固定したメンバーだけに限るのではなく、ワークショップを通してなるべく多くの方々と出会い、時間を共有し、ご縁を深めながら自然に身体と表現の可能性に興味を持っていただき、自らを表現者としてチャレンジするチームを作ることを理想として活動しております。

昨年の4月に非常事態宣言が発令された最中、スタッフと共にZoomでの会議を重ね、手探りではありましたが、トレーニング動画の配信を試みました！その作業の中で遠隔でのワークショップの可能性に気づき、9月から月2回程度、オンラインでのワークショップを実施してまいりました。

画面越しではありますが、参加者の皆さんお一人にとっての日常の空間で一緒に身体を動かしてワークすることで、不思議にも心の距離が近づいたように感じます。

他にもZoomでの参加がすぐには難しい方の為にYouTubeでワークショップの様子が見られるように！と、技術スタッフが熱意をもって同時配信を試みてくれ、これも実現しました。皆様にとても好評をいただいております!!

新しい時代の変化に戸惑うこともありますが、好奇心を持って積極的に対応していきながらも、どんな時代になろうと変わらない人と人との穏やかな心の繋がりを大切に、柔軟な心で活動してまいります！

そして、県民の皆さまとの新しい出会いを楽しみに、これからスタッフ一同頑張ります！

後編記集

令和二年度の各企画を振り返り、改めて共生共創とは毎日のことなのだと実感しています。

創作のなかで未病改善を実践し、共生社会のあり方を探る。感染拡大と縮小に対応しながら、常にできること、やるべきことを探し続けた一年でした。

この間に完成した映像作品の数々を持って、さらに多くの方を誘いに行きたいです。

（文・中野敦之）

後編記集